

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	文学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育目標とディプロマ・ポリシーに基づき現行カリキュラムの個々の開設科目の内容を具体的に精査する。	→「文学部教育目標」、「文学部ディプロマ・ポリシー」(6-1に基づく)	C	C	C		
2. 専門科目と教養科目の関連性を再定義し、あわせて履修単位制限の厳格化を実施する。	→「新基本構想(教育)A-2」、「(教育)A-7」、「文学部開講科目一覧」、「文学部内規」	C	C	B		
3. 学部の開講授業総数を見直し、増加が必要な科目に関しては可能な限り対応する。	→「文学部および他学部の開講授業総数の推移」、「文学部授業受講者数推移」	C	C	C		
4. 学部における初年時教育内容の明確化と全学提供初年次教育との連携を検討するため委員会を設置し具体的検討を行う。	→「新基本構想(教育)A-2」、「人文演習開設数・受講者数」、「人文演習担当教員アンケート」	C	B	B		
5. 『文学部履修心得』をより利用しやすい形へと改善する。	→「文学部履修心得」、「文学部GPA分布」、「GPAと就職の相関関係」	B	B	B		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	文学部ディプロマ・ポリシーは2011年度に制定された。これと従来からある文学部の「人材養成に関する目的その他教育研究上の目的」に基づいて個々の科目の内容の再検討を進めていく予定である。
目標2	各学科・専修とも共通科目と学科科目とのバランスは保たれており、カリキュラム・マップも示されている。2012年度入学生より1年間の履修単位数の上限を全学年において50単位以下とするキャップ制を導入した。
目標3	2011年度は共通科目である人文演習とドイツ語AⅢについて教育内容充実のためにクラス増を行った。
☆ 目標4	人文演習担当者会は、春学期と秋学期の終了後、年間で2回開催した。そこでは担当教員からの授業内容の報告を主に行った。しかし全学提供初年次教育との連携を検討する委員会の設置には至っていない。
目標5	英語中期留学が多様化したのにあわせて、『文学部履修心得』の内容を改めた。GPA分布は、2009年度よりも2010年度が、2010年度よりも2011年度の方が全体的に数値が下がっているが、その分析はまだできていない。
備考	